

上尾歴史散歩

255

◆ 中山道と上尾宿 ◆

古文書にみる宿場と村の生活 ③

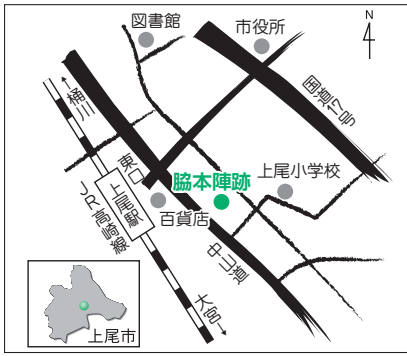
中山道の宿駅は板橋宿(東京都)から守山宿(滋賀県)まで六十七宿であるが、伝馬制の施行時に一度に宿駅ができたわけではない。埼玉県域内でも九宿が設置されているが、ここでも徐々に設置されている。上尾宿の正確な設置年は不明であるが、比較的早い段階で宿駅が設けられたと

慶長七(一六〇二)年に、前年の東海道に続いて中山道にも伝馬制度が設けられる。これが上尾宿の創設となり、周辺村を大きく変えていく契機となる。伝馬制度の施行に伴い街道に宿駅が設けられることになるが、宿駅は人馬を常時用意しておき、求めに応じて人や荷物を運送する。伝馬制度が整った段階では、東海道は百人・百疋、中山道は五十人・五十疋の人馬を用意することになっていた。これらの人馬は、幕府の公用の人や荷物を運ぶために用意されたもので、私的な旅人のために用意されたものではない。しかし公的な搬送のない時は私的な旅人も利用できたので、結果的には人馬の搬送が隆盛を極めることになる(『上尾市史第六巻通史編(上)』)。



脇本陣を務めていた民家の塀に残る当時の屋根瓦

みられる。大宮宿脇本陣を務めた栗原家の文書に、「当所(大宮宿)ハ駅場ニ無之、上尾宿より浦和宿江之馬次也」という記述がある。大宮宿が整備される以前のことを記した資料であるが、この記述では上尾宿は浦和宿と共に、早くから宿駅の整備が進んでいたことになる(『大宮市史第三巻(上)』)。



上尾下に陣屋を構えていた西尾家の家譜に、「中山道駅路桶川宿、人家無之処吉次取建之」とある。「吉次」は領主である西尾吉次のことで、これによると吉次が桶川宿を創設したことになる。創設年がここでは明示されていないが、中山道に伝馬制が施行された慶長七年以降のことと思われる。なお当然のことであるが、桶川宿の設置は鴻巣宿の創設とも関連していたとみられる。鴻巣宿は、本宿村(北本市)にあった集落が、伝馬制施行後に北方に移されて宿駅として整備されたものである(前掲上尾市史)。

このように埼玉県域の宿駅をみても明らかのように、宿駅は伝馬制施行時に全てが設けられたのではなく、徐々に早く整備された上尾宿であるが、県内の九宿のうちでは最も小さな宿駅で、天保十四(一八四三)年の家数は百八十二軒、隣接の桶川宿の三百四十七軒に比しても、大変少ない家数である(前掲書)。(元埼玉県立博物館長・黒須茂)



○に入る文字や数字を当ててください。

6月は○○推進月間です。

(ヒントは8ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、6月21日(木)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先：〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス：s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は7月号のこのコーナーで。前号の答えは「ふれあい」でした。ご応募ありがとうございました(応募者34人)。

市の人口・世帯

(平成24年5月1日現在)

22万7,308人

男/11万3,425人

女/11万3,883人

※前月より91人増。

9万3,598世帯

◆『広報あげお』は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅の他、市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス“ぐるっとくん”を利用してください。



本紙は、再生紙を使用しております。